第５学年　音楽科学習指導案

指導者　木村　公一

＜本時の授業の視点＞
グループでのアンサンブル活動において，自分たちの演奏を振り返りながら児童同士の学び合いにより表現を工夫し，学びを深めていく場の工夫

１　題材名　　豊かな表現を求めて

２　題材の目標
○　拍の流れやフレーズ，音楽の縦と横の関係を聴き取り，各声部の役割を意識して音を合わせて演奏する。

３　主な〔共通事項〕
拍の流れやフレーズ　音楽の縦と横の関係

４　題材について
(1) 題材観
本題材は，学習指導要領の第５学年及び第６学年のＡ表現の（２）器楽のイ「曲想を生かした表現を工夫し，思いや意図をもって演奏すること」とエ「各声部の楽器の音や全体の響き，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏すること」を受けて取り扱ったものである。本題材では，拍の流れやフレーズ，音楽の縦と横の関係を聴き取り，拍の流れ，フレーズ，主な旋律と副次的な旋律のかけ合いや音の重なりに焦点を当てて表現の工夫をし，各声部の役割を意識して音を合わせて演奏することをねらっている。具体的には，８分の６拍子の拍の流れ，主な旋律と副次的な旋律，低声部の三つの声部の役割を感じ取りながら，各声部の楽器の音や全体の響きを聴いて音を合わせることを学習の柱としていく。８分の６拍子の拍の流れにのり，フレーズを生かした演奏をしていくことは，息づかいやタンギングなどのリコーダーの演奏の技能を見直し，より美しい奏法を求めてくことにもつながる学習である。これらの学習を通し，児童一人一人が，音楽を形づくっている要素を聴き取って，思いや意図をもって楽曲にあった表現を工夫できるようになるとともに，器楽の演奏技能も高めていけるようになると考え，本題材を設定した。

(2) 児童の実態　　（調査人数　２８名　平成２４年７月１２日）

１　音楽の授業でどの活動が好きですか？（複数回答）
・歌唱　２５名　・器楽　２４名　・音楽づくり　１７名　・　鑑賞　１８名
２　器楽の授業ではどんな演奏形態が好きですか（複数回答）
・１人で演奏する（独奏）　１６名
・友達と音色を合わせて同じ旋律を演奏する（ユニゾン）　２５名
・少ない人数で合奏のように演奏する（重奏）　１８名
・全体でパートに別れて合奏する（合奏）　２６名
３　合奏の授業ではどんなことに気を付けていますか？（自由記述・類似回答分類）
・自分のパートを間違わないように演奏する　２２名
・自分と同じパートの人の音を聴いて音色を合わせて演奏する　１３名
・自分とは違うパートの音を聴いて音を重ねて演奏する　５名
・旋律の流れに合わせて演奏する　４名
４　演奏で困ったときにはどんなことを頼りにしますか？（自由記述・類似回答分類）
・友達と聴き合いアドバイスをもらう　２５名　・先生に質問する　２４名
・範奏ＣＤを参考にする　１５名　・楽譜をよく見る　８名

本学級の児童の多くは音楽の授業が好み，実態調査１から分かるように，特に歌唱や器楽などの表現分野の学習を好きと答えている。１学期の学習では，オーケストラの演奏や大人の合唱を聴き，「自分もやってみたい」というあこがれをもち，身体全体を使って豊かな表現方法の模倣をしている児童が多く見られた。また，実態調査２から分かるように，器楽の授業では友達と音を合わせた学習への関心が高い。１学期のリコーダーの学習では，拍の流れを身体で感じ取って表現したり，主な旋律と副次的な旋律を調和させながら演奏できた児童も見られた。しかし，実態調査３からは，自分のパートを間違わないで演奏することが精一杯で，表現を工夫するところまで至っていない児童が多くいる現状が分かった。そのような現状ではあったが，実態調査４から分かるように１学期の学習においては児童同士の学び合いが効果的であったように考察できる。その中で，本学級で金管バンドに所属する３名の児童が，児童同士の学び合いにおいて，金管バンド活動で得た知識や技術を生かして友達に助言をしている姿が見られた。その助言を受けて新しいことができるようになった時の児童のほほえむ表情は，満足感や達成感にあふれ，その感動が活動への意欲とつながっていた。そこで，本題材では，意図的に編成したグループにおけるアンサンブル活動において，児童同士の学び合いによる表現方法の練り上げを授業の中心として，児童にとって深まりのある学習となるようにしたいと考えた。

(3) 指導観

こうした実態を踏まえ，本大会の大会主題にもある「魅力的な出会い」を大切にした授業を展開したい。よい演奏に触れた時や友達同士の学び合いで新しいことができるようになった時の感動が，児童の意欲や前向きな表現を喚起できるようにしていく。そこで，本題材の導入時においては，リコーダーアンサンブルの演奏を聴かせ，低音域から高音域まで広がるリコーダーの豊かな響きやさまざまな種類のリコーダーにあこがれをもって学習に取り組めるよう意欲づけを図る。特に，本題材で取り扱う楽曲での，８分の６拍子の拍の流れを生かした表現には，低声部の役割が重要になってくる。そこで，児童があこがれをもった未知の楽器であるアルトリコーダーとバスリコーダーを合奏に導入する。楽曲の編曲においては，低声部の旋律は，アルトリコーダーやバスリコーダーを用いると小学生でも演奏しやすいようになっているので，児童があこがれをもった楽器との出会いにより学習がさらに深まっていくであろう。表現方法を深めていく段階では，グループでのアンサンブル活動において，自分たちの演奏を振り返りながら，児童同士の学び合いによる表現方法の練り上げを授業の中心として，児童にとって深まりのある学習となるようにする。このような自分たちの表現が豊かに練り上げられていく感動のある学習を通して，本大会の大会主題「共に親しみ，共に楽しみながら，心をつなぐ音楽活動を求めて～魅力的な出会いから深まりへ～」に迫るようにする。

5　教材について

・「風とケーナのロマンス」（Ｊ．Ｒ．トーレス作曲　横沢源編曲）　教育出版「音楽のおくりもの」５年

この曲は，ドリア旋法，８分の６拍子，２部形式　Ａ（ａ ａ′）Ｂ（ｂ ｃ ）で作曲されている。原曲には，「こだまするケーナの響きによって目覚める，地の底深く眠っていた娘」が歌われており，ケーナの演奏で親しまれている。本教材では，主な旋律と副次的な旋律，低声部の３声体で構成されており，低声部の伴奏にのって，主な旋律と副次的な旋律のかけ合いや音の重なりが流れるように美しく編曲されており，児童が拍の流れやフレーズ，音楽の縦と横の関係を感じて演奏するのに適した楽曲である。

6　題材の評価規準

ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽表現の創意工夫	ウ　音楽表現の技能
①各声部の音や全体の響きに興味・関心をもって進んでリコーダーを演奏しようとしている。 ②各声部の音や全体の響きを聴きながら，自分の音を友達の音と調和させて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	①拍の流れやフレーズを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，８分の６拍子の拍の流れにのった演奏をどのように工夫するかについて自分の考えや願い，意図をもっている。 ②主な旋律と副次的な旋律のかけ合いや音の重なりを聴き取り，それらの生み出すよさや面白さを感じ取りながら，音を合わせての表現を工夫し，どのように演奏するかについて自分の考えや願い，意図をもっている。	①リズムや発音，音程に気を付けて，主な旋律や副次的な旋律，低声部の旋律を演奏し，全体の響きを味わって合奏している。 ②各声部の役割を考え，全体の響きや，他の声部を聴きながら自分の音と友達の音を調和させて合奏をしている。

7　学習と評価の計画（５時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	具体の評価規準
第１次 (2)	○さまざまな種類のリコーダーに親しみをもち，リコーダーの音色や全体の響きを味わって合奏をする。	・リコーダーアンサンブルを鑑賞する。 ・「風とケーナのロマンス」の楽曲の感じをつかむ。 ・主な旋律と副次的な旋律をソプラノリコーダーで演奏する。	ア－① ウ－①
		・アルトリコーダーとバスリコーダーについて知る。 ・アルトリコーダーとバスリコーダーで「風とケーナのロマンス」の低声部を演奏する。 ・パート編成をして全体で合奏する。	ウ－①
第２次 (3) 本時は 第２時	○各声部の役割を考え，音を合わせた演奏を工夫する。	・グループを編成し，「風とケーナのロマンス」をグループアンサンブルで演奏する。 ・グループごとに録音した演奏を聴き，どんなところを工夫して演奏するかを考える。	イ－①

		・前時の学習をもとに，旋律のかけ合いや音の重なりを生かした表現を工夫する。 ・互いに聴き合い，それぞれの表現のよさを学び合う。	イ－②
		・前時までの学習をもとに，グループごとに工夫したことを生かして，全曲を通して演奏できるように練習する。 ・発表会を行い，それぞれの表現のよさを学び合う。	ア－② ウ－②

8　本時の学習

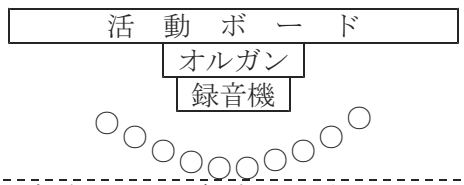
(1) 目標

○　主な旋律と副次的な旋律のかけ合いや音の重なりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，自分の考えや願い，意図をもってグループアンサンブルにおける表現を工夫する。

(2) 準備・資料

楽譜，ワークシート，アルトリコーダー，バスリコーダー，グループごとの活動ボード，オルガン，メトロノーム機能付きのオルガン，録音機器

(3) 展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（◆学習活動における具体の評価規準）
1　本時の学習課題を確認する。 (1) 前時の学習を振り返り，自分たちの演奏の改善したい点を確認する。 ＜予想される改善点＞ ・旋律のかけ合いの部分がずれる ・旋律のかけ合いが終わって縦が合うところがずれる ・速さが安定しない ・パートごとにバラバラになってしまう (2) 教師と協力児童による範奏を聴く。 ＜聴く視点・見る視点＞ ・演奏の始め方　・息の使い方 ・身体の使い方 ・旋律のかけ合いの様子 ・音が重なって和音になっている様子 (3) 演奏で注意した点を聞く。 (4) 本時の学習課題を確認する。 旋律のかけ合いや音の重なりが生み出すよさや面白さを感じて演奏しよう。 【本時の〔共通事項〕】 ・音楽の縦と横の関係	・教師や友達の範奏を聴くことで，児童があこがれをもって授業に取り組み，深まりのある活動になるようにする。 ・はじめに自分たちの改善したい点を確認してから，聴く視点を明らかにして問題意識をもって範奏を聴くことで，課題解決のヒントを得られるようにする。 ・範奏から旋律のかけ合いや音の重なりの美しさや面白さを味わわせることで，目指す演奏のイメージがもてるようにする。 ・範奏には金管バンドの児童に手伝いをしてもらい，どんなところに気を付けて演奏をしたかを話してもらい，自分たちの演奏の参考にできるようにする。 ・演奏の感想を交換しながら，範奏でどんなところに気をつけたかを自由に質問できるようにする。 ・本時は表現を工夫していくことを中心とした学習であることを確認する。 ・各声部の役割や相互の関係を考えながら深めていけるように助言する。 ・とくに，旋律のかけ合いや音の重なりが美しく，楽曲が盛り上がる中間部の４小節の合わせ方を中心に学習をしていくことを確認する。
2　グループごとに，旋律のかけ合いや重なりを生かした表情豊かな表現を工夫する。 ☆旋律のかけ合いの部分の合わせ方を工夫する。 ☆パート同士の関係を考える。 ☆なめらかな演奏の流れを工夫する。 ＜グループ内の場の構成＞  ＜予想される課題解決の手だて＞	・グループごとの活動ボード（前時までの学習の流れやグループごとの思いや意図を振り返れる小黒板）を囲むように各グループごとに集合する。 ・言葉による話合いを中心にするのではなく，話し合ったことを実際に演奏して，振り返りを行い，交代で聴き合ったり，録音したものを確かめたり，音を介したコミュニケーションを中心に練り上げていけるようにする。 ・個人のワークシートには，自分の思いや意図，友達のよい考えをどんどん書き込んでいくようにする。 ・活動ボードにはそれぞれの思いや意図を付箋で色分けして記入していけるようにする。 ・ただ何度も繰り返して演奏をするのではなく，１回ごとに振り返りをしたり，フレーズごとに区切って練習

☆音楽の縦と横の関係をとらえるための手だて ↓ ・楽譜をよく見てパートごとの関係をつかむ。 ・オルガンで３つの旋律を演奏したものを聴く。	したり，深まりのある活動となるようにする。 ・クラス全体に理解を広めるとよいと思われる発言があった時には，グループ活動を一度止め，全体で確認できるようにする。 ・必要に応じて教師が，旋律のかけ合いや音の重なりの様子をオルガンで演奏し，楽曲の構成の特徴を捉えられるようにする。
☆旋律のかけあいや音の重なりを生かして演奏するための手だて ↓ ・３つのパートの縦の関係を意識して演奏する。 ・旋律がかけ合っている様子を感じて演奏する。 ・和音が重なる様子を味わって演奏する。 ・他のパートの演奏をよく聴いて演奏する。 ・低音をよく聴いて演奏する。 ・低音の演奏に合わせて，自分たちのパートを歌う。 ・同じパートもよく聴いて演奏する。 ・同じパートで吹き方や音色をそろえる。 ・吹き始めのカウントやブレスをそろえる。 ・メトロノームを活用する。 ・８分の６拍子を２拍子の流れで感じる。 ・身体のノリをそろえて演奏する。 ・息の流れを止めないで演奏する。 ・歌を歌うようにリコーダーを演奏する。 ・録音して，改善点を話し合う。	・行き詰まってしまったグループには，教師が助言したり，指揮をしてみたり，一緒に演奏をしたりして改善の方法を示すようにする。 ・交代で聴き役の児童が聴いて助言できるようにしたいが，必要に応じて録音機器を活用して自分たちの演奏を聴き，改善点を考えていけるようにする。 ・グループ内での並び順も，合奏しやすいように工夫した並び順にできるようにする。 ・楽譜に着目して，楽譜から旋律のかけ合いや音の重なりの様子を捉え，各声部の役割や音楽の縦と横の関係を視覚的に捉えられるようにする。 ・金管バンド経験からの発言を生かして，さらに深まりのある表現になっていけるようにしたい。 ・ヒントコーナーを設置し，表現の工夫のためのヒントカードを自由にグループで活用できるようにする。 ◆　主な旋律や副次的な旋律，音の重なりを聴き取り，それらの生み出すよさや面白さを感じ取りながら，音を合わせての表現を工夫し，どのように演奏するかについて自分の考えや願い，意図をもっている。 （イ－②：演奏の様子やグループ活動の見取り，活動ボード，ワークシート）
３　グループごとの演奏を発表し，それぞれの演奏のよさを話し合う。 ４　本時のまとめを行う。 ・同じパートや他のパートの演奏を聴きながら，主な旋律や副次的な旋律，音の重なりを意識して演奏する。 ・友達の音と自分の音を調和させながら演奏する。	・発表の前に工夫したところを説明することで，工夫したところが聴く側にはっきりと伝わるようにする。 ・演奏を聴く際に，旋律のかけ合い，音の重なりの２つの視点を示し，それぞれのグループの工夫した点から，自分たちの演奏との共通点や異なったよさを見出し，それらを言葉で表し，互いの活動を共有させたい。 ・次時には，本時の学習を生かし，楽曲全体での豊かな表現ができるようにする学習をすることをつかむ。

(4) 本時の観点別評価の生かし方

【Ｃと判断される状況への働きかけ】
・教師が３つの声部を同時にオルガンで演奏し，旋律のかけ合いや音の重なりの様子を捉えられるようにする。
・楽譜を縦に読むように助言し，視覚的にかけ合いや重なりの様子を捉えられるようにする。

【Ａと判断するキーワード】
□　主な旋律と副次的な旋律のかけ合いや音の重なりの美しさを感じて
□　友達の音色と自分の音色とを調和させて
□　和音の美しさを感じて